

上越

谷川ノ鷹ノ巣C沢

メンバー：三井（L、記録）、志満
遡行日：10年7月24日（土）

「鷹ノ巣C沢」には「西ゼン」に匹敵する大ナメスラブがあるという。行ってみようと思っただけだったが、中々その機会が得られずにいた。

今回の山行にあたって志満さんからハードで長めの沢に…、という希望が伝えられた時にまず、この沢が浮かんだ。ネットで検索してみると殆どの記録で10数時間かかって夜間下山している記録が残されている。面白い山行になりそうな予感。

* * * * *

谷川温泉に深夜到着。去年の秋の集中の時に利用した、きれいなトイレのある駐車場(?)に車を止め、仮泊。

6時少し前に谷川温泉をスタートする。出合いまでの沢沿いの登山道はヒルが酷い。僕は塩とヒルバスターを足回りにしっかり摺りこんで防御体勢をとり、志満さんもスパッツをしてその上下をガムテープでグルグル巻きにして対策をとっている。

登山道を歩き始め、暫く行くと早くもそのヒルが鎌首をもたげて蠢いている。先週の「杉川」もヒルがひどかったがここも同じ。全く気色悪い奴らで、僕の山仲間、沢は好きだがヒルが全くダメで、ヒルのいない沢か、ヒルの出ない時期にしか沢に行かない、って人がいるけどわからなくもないね。

「オジカ沢」の出合いまで行って沢靴

に履き替えるが、幸い僕は被害はなかったが志満さんには数匹のヒルがガムテープの隙間から入り込み、しっかりモーニングサービスを受けている。ヒル騒動が治まり、さて本番。

「オジカ沢」出合の沢を5分ほど下り、「谷川」の本流にでる。上流に進むと間もなく冴えない小沢が左岸から入る。ここが「鷹ノ巣沢」の出合いだったのだが通り過ぎてしまい、行き過ぎに気づき引き返す。

出合いの左側の岩に遭難碑のプレートが埋め込まれており、それを知っていれば入渓点の見落としはなかったのだが。

ゴー口の沢を30分ほど行くと左岸からA沢が出合う。出合いの岩に赤ペンキでAと書いてあるのだが殆ど消えかかっているその事を知っていないと気がつかないだろう。

行く手には真っ青な夏空の下にC沢の大ナメスラブが望め、嫌がうえにも期待感が増す。

沢は一旦伏流となる。関越トンネルの排気塔を左に見ながら逸る気を抑え、足早に進むと右にB沢を分けてC沢に出合う。B沢にはSBが架かり、C沢は優美なナメ滝が落ちている。

水流の右から登ると眼前に大ナメスラブが広がっている。正に天上に続くスロープといったものか。思わず感嘆の声がでる。

傾斜は緩く、時折手を付く程度でルートは好きなようにとれる。快適としかいいようがない。確かに「西ゼン」みたいだが「下の滝沢」の上部の大スラブもこんな感じだったよな。

スラブが左にも分けるようになると

沢は沢巾の狭いものに姿を変え、細い水流の段状の滝となる。

2段20m、CS滝10mと、次々に滝を越えていく。(この辺り、滝の一つ一つは明瞭ではないので記録者によって表記は違うだろう。)

やがて2段30mといわれている滝に出会う。水流脇はヌメっているが左壁に残置ピンがあり、ロープをつけ、垂壁部分を登り水流側にトラバース、滝の落ち口の凹角は被り気味だが力技で強引に乗越す。

その上には巨岩のかぶった20m滝があり、その巨岩に沿って直登。これで大きな滝は片付いたか。沢は傾斜を増すが更に細くなっていき、それを忠実に追ってツメて行く。

間もなく沢は広大な斜面に吸収され、そこから俎峯(マナイタグラ)のバットレスが立ち上がっている。

正面壁に取り付いても面白そうだが生憎そんな時間のゆとりはない。

沢靴をスニーカーに履き替え、幾らか傾斜の緩い右に寄って登りだす。3級程の草付きの壁でぐんぐん登っていきけるが露岩混じりの草付きとなると登りにくくなり、完全な草付きになると傾斜は7-80度の垂壁状になる。

さすがに頭の中の警告灯が点滅し始めロープをだす。(相変わらずロープをだすタイミングが遅いね。)

その草付きは思ったより安定しており、50mロープいっぱい延ばすと漸く俎峯の稜線に遣い上がった。

稜線は小灌木の生えた痩せ尾根で、この頃からガスがスタート、前後の視界がなくなったのでまるで狭いピーク上に立っているようだ。

「鷹ノ巣沢」は完登したもののすでに4時になろうとしている。下山にはまだ結構な時間を要する。気はせくがやはり日があるうちに下山するのは無理だろうなあ。

オジカ沢ノ頭に向かって稜線を辿る。俎峯の稜線は、小灌木と笹の痩せ尾根となっているが、時折踏み跡らしきものはあるが概ね藪漕ぎで、幸い藪は腰から胸程度で大した事はない。

尾根が広がり、登りとなると笹も深くなる。ガスも濃くなり、オジカ沢ノ頭に立った頃には稜線はすっかりガスの中となった。

これからは明瞭な登山道があるので、時間がかかろうがとにかく下るだけ、と思ったが嫌な状況が…。小雨がパラつき始め、遠くではカミナリの音がするではないか。「ヤバイ。」

雨はどうしてもカミナリは怖い。雷鳴は遠くても、それが危険から離れている訳ではない事は、過去の落雷事故が証明している。疲れていてもつい、足早になる。

「肩の小屋」にたどり着きひとまず安堵した。時間は6時半。直に暗くなるが今日中下れる目途はついた。

小屋の入り口で行動食を腹に収め腰を上げる。下り始めると直に暗くなり、ヘッ電のスイッチを入れる。下界の灯りが綺麗だ。あれは水上の町だろうか。何度か歩いた事のある道だがこんなに長かっただろうか、天神平には8時半着。2時間もかかってしまった。

真っ暗なロープウェイ駅の駅舎の前に座り込んで休む。疲労感がどっとでる。谷川温泉に下る道は見つかるだろうか。あれはどの沢だったか、やはり

下山が夜になり、スキー場に着いたもののスキー場から下る道が判らず往生した事があった。そういえばその時も志満さんがいたっけなあ。

こんな時間だし、濡れて寒くもある。疲れたという気持ちがもうここでビバークしてもいいな、という思いに変わる。が、志満さんは下る気マンマンで下山ルートを探し求め、丈の高い草の繁ったスキー場の斜面を登り始める。彼女がその気なら僕も合わせるしかなからう。

知っていればなんという事もないだろうが小1時間もウロウロと捜し回って漸く谷川温泉へ下る道標をみつけた。

ヤレヤレだ。これで一安心と思ったが身体がついていかない。志満さんは元気だったが僕はヨレヨレ、休み休みとなる。暫く下って行き、道が沢浴いになるとまたヒルがでる。(なんてヤツらだ。夜は大人しく寝てろ、って。) 実は下山ルートを当初は当然、一番手近な中ゴ一尾根を下るつもりだったが、ヒル道は避けたい。で、谷川温泉に直接下る、このルートの方が多少時間がかかっても、という事で変更したのだが…。

志満さんはしっかりヒルを剥がしている。それも指で…。(もうこれで完璧な沢女の誕生だね。)僕は今更気にしてもしようがないと、殆ど放置状態で下る。

漸く谷川温泉近くの車道にたどり着いき(深夜1時)、やっと着いたと思ったらそこから谷川温泉までが意外と長かった。

車に乗る前にしっかりヒルは取り除

かなければならない。(自宅へのお持ち帰りは絶対避けなければね。)

カッパのズボンを取り、沢ズボンをたくし上げるといいました、いました。これから食事になりつこうとアセアセと、のたっているものやら、しこたま喰らって丸々したものやら10匹はいたね。志満さんも似たようなもの。それから二人してヒル退治。キンカンもなくなり、アイスパイルによる瞬間撲殺の刑に処す。全滅させたところで車に戻り、漸く車に1乗り込んだのは2時45分だった。

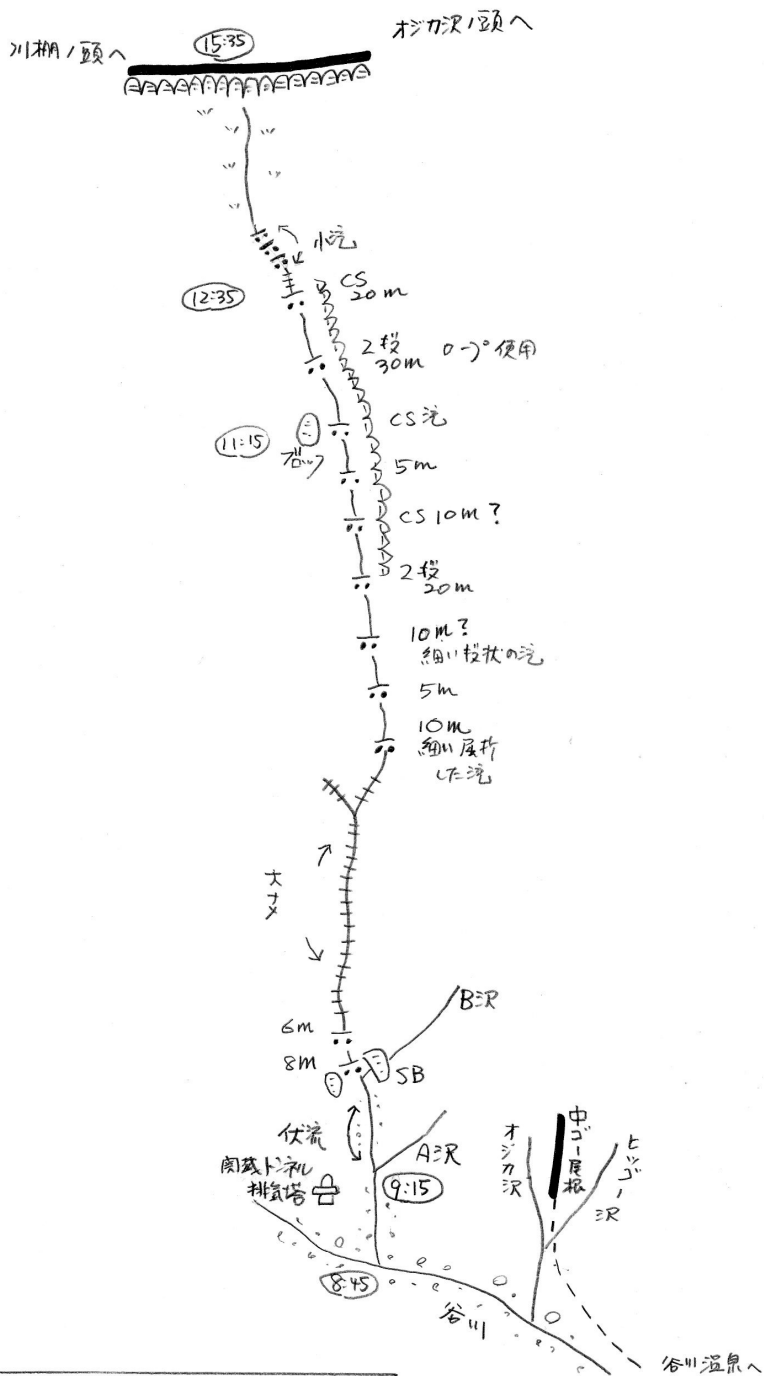
さすがにこの時間では関越道も渋滞はない。が、時折襲ってくる眠気には勝てない。何度かS・Aで仮眠して厚木に戻った。

* * * *

苦労はしたがその分、記憶に残る山行だったと思う。

ルート変更、ルート探し、それにヒル退治やらで、色々ロスタイムはあったし、下山で僕がブレーキになったのも確かで、今回のコースタイムはイレギュラーなものと考えたい。

何れにしても沢としてはかなり楽しめると思う。機会があれば皆さんにも入渓をオススメしたい。



10年7月24日
 上越 / 谷川・鷹ノ巣C沢